

中央日報 2000年6月19日

陸路時代 南北経済協力 最初の課題は鉄道・電力など SOC 事業

釜山からアムステルダムまで大陸を走る “鉄のシルクロード”

“京義線との連結” ロシアと論議
発電所 燃料を支援して電気の拡充

京元・金剛山線など復元を推進
南北の送配電 線路連結方案も

南北頂上の共同宣言文の署名以後、南北韓双方が最優先で取り組むべき経済協力事業として、鉄道・道路・港湾・電力など社会間接資本施設（SOC）プロジェクトが目白押しである。今後、活気を帯びる南北間の物的・人的交流には交通網の拡充と連結が必須前提条件であるからだ。また電力などエネルギーは北韓がすでにかなり前から深刻な不足現象をかかえている分野である。

SOC 分野は南北間の格差が少なくないうえ事業の波及効果も大きく、共同宣言文で明らかになった “民族経済の均衡発展” の次元でも協力の必要性が強調されていた。

特に、金大中大統領は頂上会談を終えた後、帰国報告で “京義線さえ結べばヨーロッパまで行けるし運送費が30%ほど節減され輸送期間も著しく減少する” とし、そうなれば新たな “鉄のシルクロード” が始まる、と強調していた。京義線の復元により南北はもちろんのこと中国～シベリア～ヨーロッパに至るユーラシア貫通鉄道を結ぼうという構想と豊富を表明した。

.....中略

交通開発研究院はわが国がシベリア横断鉄道を使用するとヨーロッパまで海上運送と比較して、年間2千4百万～5千3百万ドルの物流費を節減するだけではなく観光用の列車運行による海洋・大陸間の観光コース開発で人的交流がさらに活発になり南北韓の国内総生産（GDP）が年間50億ドル以上増えるものと推定された。韓化グループなどシベリア横断鉄道に関心を持っている企業の動きも速くなっている。

.....中略

海洋部は特に南北韓の間の物流部門の役割を果たすものと予想される北韓の羅津・南浦・清津・元山港などの施設整備を支援する方案も準備している。航空分野の協力事業としては南韓が北韓領空を通過するアメリカ州・ヨーロッパ路線を開設する方案があげられている。

◇多様な方案が検討される電力協力事業＝北韓の劣悪なエネルギー事情を改善するために
南韓が北韓の電力網の拡充を支援する方案が推進されている。

.....中略

また、来る9月ロシアで開かれる韓・ロ交通長官会議でシベリア横断鉄道（TSR）の連結問題が論議されるものと見られる。

中国横断鉄道（TCR）は自体の物流消化がやつとな実情であるがシベリア鉄道は30%以上余裕があり、韓国側の連結路線として有力視されている。これに構想段階である韓日海底トンネルまで連結されれば “シルクロード” という表現にふさわしい路線が構築できる。

建設交通部の関係者は“南北だけではなく中国・ロシアがすべて標準軌を使用しておりこれから南北韓・中国・ロシアが参加して基本計画を樹立すれば早くて2005年にはシベリア横断列車を運行できる”とみている。

TSRはロシアのウラジオストクから始まりウズベスクを経てモスクワからプレストまで結ばれ西ヨーロッパへと続いている、総延長9208Kmに達する。

連結方法はソウルを出発し京義線でピョンヤンまで行った後、光?羅線を通って羅津を経て、シベリア鉄道と結ぶという方法と、京義線の終点である新義州から中国の国境地域を越えてモンゴルを通りシベリア鉄道と結ぶという2つの方法が可能とみられる。

.....中略

◇別の道も連結される=京義線に続き京元線（ソウル～元山）のシンタン里～平康区間（31Km）、金剛山線（ソウル～金剛山）の鉄原～キソン区間(75.3Km)の復元も推進されるとの展望だ。政府はすでにこれらの路線について用地買収など復元準備作業を終えた状態である。東海北部線の杆城～ウンジョン里区間30Kmの復元問題は現代グループがすでに関心を表明している。

南北韓の鉄道協力は金日成前北韓主席が94年に死亡する直前に必要性を論じた事業であり、北韓側も積極性を見せている。国道1号線の板門店～開城区間など南北連結道路の6つの断絶区間の復旧事業も順調に進んでいる。政府はこれらの道路の拡張・舗装はもちろん統一時代にそなえて接境地域周辺の道路についての整備作業も急がれている。

.....中略

◆発電所を直接つくる方案。

◆北韓の既存の発電所を正常稼動させるために石炭・ガスなどの原料を供給する方案、が検討されている。政府は短期的に北韓に燃料を支援し、老朽化した発電所を再稼動させる反面、北韓の一部の電力系統を南側に連結する事業を優先して進める計画である。長期的には非武装地帯などに原子力・火力発電所などを南北共同で建設し、送・配電線など電力系統を单一化してゆくという腹案も立てている。

南北韓の送配電線を互いに連結して南側の余っている電気を北側に供給する方案も投資費を減らすことのできる長所があるが、南北韓の電気の品質差などが解決すべき課題として指摘されている。

そのため北韓の古い発電設備の稼働率を

高める方案も有力な代案として浮上している。南韓で余っている備蓄無煙炭1千万トンの一部を北韓の発電所の稼働用に送ってあげることも考えられる。小規模な発電所を作りあげるか南側の余っている発電設備を移転するという提案もある。

チャン・ヨンシク漢陽大教授は“夏を除くといつも余っている南側の深夜電力だけを活用しても北側に電気を十分に供給できる”とし、議政府地域の変電所施設だけ補完すれば南北韓の間の送電が可能だ”と語った。